

①六個の鳥居の礎石

北中のお寺さんから寺中のお宮さんへ行く途中、道の両側に三個ずつ大石がポンポンとならんでいる。これは殿上山にあった禪定神社の鳥居の跡やと。六個の石で一つの鳥居ができていたんやろ。

敦賀の気比神宮の赤い大鳥居や鯖江の舟津神社の大鳥居と同じ形をしてたんやろ。大きさは、この二つの鳥居の中間ぐらいかな。柱の間と高さが気比神宮は七・五メートルに十一メートル、舟津神社は四・七メートルに六・四五メートルあるそうや。北中のは柱の間が六・八メートルもある。この鳥居一体どれほどの高さがあったんやろ。九メートルか十メートルほどもあったんやろか。気比神宮のが国の重要文化財で、舟津神社のが県の重要文化財になっている。北中の鳥居が今も残っていたら、何に指定されてたやろか。

ある時、この石を動かそうとしたら、神様の石やでかのう、空が急に曇って雨風になって、動かせなんだんやと。

ほやさけ、この参道の道幅は昔のままや。

四・五百年も昔やで、特別広がったんやの。

ついでに言う所の。この鳥居は二の鳥居で、

鳥居は戸口の河和田川の橋の手前であって、

鳥居は河和田神社の前にあつたというんや。

これにはもう一つ別の言い伝えがあつて、

鳥居は鯖江の長泉寺にあつて、二の鳥居が戸口、

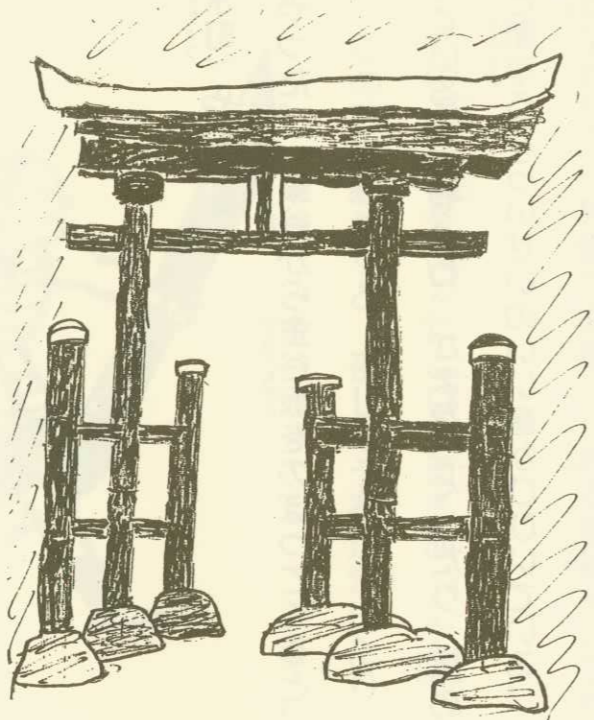
三の鳥居がこうと言つんや。ほんととはどっちなん

やろの。どっちにしろ、こんなすごい鳥居を建て

た朝倉氏の力がわかるつちゆうもんや。そやけど

の、朝倉五代目の義景が信長に負けて、一乗谷は

あつけのう焼け野原になってしまった。次の年は、一向衆の信者が越前を乗っ取ろうとしたんで、また信長に攻められて負けた。その頃この鳥居も焼けてしもつたんやろか。河和田の谷もいっと



きにさびれてしもたはずや。なんせ戦国時代で、あっちこっち戦争ばかりやったでの。ほんとになんで昔の人は争うてばかりいたんやろかの。

⑰ にぎわった清水町

河和田にも町があったって。そう清水町（東清水町）や。

朝倉氏が栄えたころは、ここもにぎやかなところやった。一乗谷から金谷坂をのぼってくと、まっ先に清水町が見えるんや。

寺中をすぎると、なわての両側にかじやが並んでいる。刀やくわ、かまをつくったり、馬の蹄鉄をつくったり、トントンカン・トントンカンと朝早うからいせいのいい音がびびっている。

村の中に入ると、朝倉の家臣の四郎左衛門の屋敷があって、射場では部下が弓の練習をしている。百姓家の向こうには、真言宗悦相院の屋根瓦が光っている。それに、ここには遊女もいたっ

ていうでの。そのころは戦国時代やで、男はしょっちゅう戦さになり出された。戦さが終わると、坂を越えて疲れをいやしに来たんやろ。女がうたうはやりの歌を聞きながら、お酒を飲んで、生きて帰れてよかったとつくづく思ったやろ。

それから村の入口にの、「夜泣き石」というて、その上で首を切ったという石もあったんや。首を切られた人の悲しみがしみこんでいたんかの。この石を動かすと、夜じゅう石が泣いたり、たまに光ることもあったんやと。

